Jazz Interview Vol.72

★八面六臂の活躍を魅せる女性ジャズ・ベーシスト！★

リンダ・メイ・ハン・オー【Linda May Han Oh】

Photo by Shervin Lainez

マレーシア生まれ、オーストラリア・パース育ち、現在アメリカ・ボストンを拠点に活動。今年の第65回グラミー賞®でベースで参加したテリ・リン・キャリントンのアルバム「ニュー・スタンダーズ・Vol. 1」が〈ベスト・ジャズ・インストゥルメンタル・アルバム賞〉を受賞し、テリ・リン・キャリントンとメンバーと共に登壇。近年は自身のグループでの活動の他、パット・メセニーのツアーに参加するなど、現代ジャズ・シーンを代表するベーシストのひとりとして八面六臂の活躍を見せているリンダ・メイ・ハン・オー。新たなプロジェクト＝“ザ・グラス・アワーズ（The Glass Hours）”名義の新作リリースを控える中、スペシャル・インタビューが実現した。

【2023年2月 取材・文：加瀬正之
取材協力：Matt Merewitz/Fully Altered Media】

♪ まず最初に今回の特別なインタビューに応じて頂きとても感謝しています。近年、日本のメディアでインタビューを受けたことはありますか？

日本のメディアからインタビューを受けるのは、おそらく数年ぶりね。

♪ 現在、ピアニストのファビアン・アルマザンとライヴ活動をされていますが、最近の活動について聞かせて下さい。

2023年はとても忙しい年になりそうだわ。サラ・セルパがヴォーカル、マーク・ターナーがテナー・サックス、ファビアン・アルマザンがピアノとエフェクト、オーベッド・カルヴァイがドラム、そして、私がベースの“ザ・グラス・アワーズ”というプロジェクトで新しいアルバムを出す予定なの。リリースが楽しみだわ。私がここ最近取り組ん来たプロジェクトで、すべての楽曲は人生と時間の儚さに基づいているのよ。

今ちょうど、テリ・リン・キャリントンと演奏するためにサンフランシスコに向かうところなの。モントレー・ジャズ・フェスティヴァル、SFJAZZ、おそらくノース・シー・ジャズ・フェスティヴァルなど、1年間を通じて彼女と一緒に演奏することになると思うわ。

SFJAZZのあとは、オーストラリアに直行して、2年かけて取り組んできたパーカッションの曲を初演する予定で、それは“エフェメラル・エコーズ”と言うの。オーストラリアのパーカッション・トリオと、ピアノのファビアン・アルマザン、ドラムのベン・ヴァンダーウォルをフィーチャーしていて、オーストラリアのパーカッション・トリオは、ジェネビーヴ・ウィルキンス、スティーヴ・リヒター、イアン・ロビーよ。私たちはかなり長い間リモートで作業して来たから、この作品を初公開できることに本当に興奮しているわ。

また、“ザ・グラス・アワーズ”バンドでヨーロッパをツアーする予定もあるの。他にもいくつかのショーを計画しているわ。6月にはアイルランドでファビアン・アルマザンとのデュオ、その他にもヴィジェイ・アイヤー・トリオとのギグもあるのよ。

♪“ザ・グラス・アワーズ”のアルバムのコンセプトを聞かせて下さい。また、このアルバムはあなたのキャリアにおいてどのような作品になりましたか？

このプロジェクトを本当に誇りに思っているわ。私はこのクインテットのサウンドをそれぞれの楽曲と共に大きなアンサンブルのように聴こえるよう試みたの。ベース・パートとヴォーカル・メロディをバックアップ・ヴォーカル・ラインと組み合わせた方法でね。それは私が今までやって来たこととは大きく異なるもので、この音楽を発表することにとてもエキサイトしているわ。

♪ どのような経緯でベースを弾き始めたのですか？　また、ジャズを聴き始めたのはいつ頃からですか？

私にはとても幅広いジャンルのレコードをコレクションしている姉がいたの。彼女はあらゆる種類の興味深いアルバムや音楽を私に教えてくれたのよ。ミシェル・ンデゲオチェロからマイルス・デイヴィス、ジョン・ゾーン、マーク・リボー、ビースティ・ボーイズ、パブリック・エナミーまで全てね。だから、私の友達の多くがチェックしていなかった数多くの様々な音楽をチェックするよう刺激を与えてくれた姉にとても感謝しているわ。友達の多くはメインストリームの音楽を聴いていたからね。

私はハイスクール時代にジャズを始めたの。当時、姉のレコード・コレクションを聴きながら、それを演奏するようになったのよ。エレクトリック・ベースに手をし始めて、ロックやレイジ・アゲインスト・ザ・マシーンをたくさん演奏したわ。その過程でジャコ・パストリアス、ジェームス・ジェマーソンと出会ったの。

それから、ウェザー・リポート、ウェイン・ショーター、マイルス・デイヴィスに辿り着いたわ。そして、過去に遡る形で、ベースにレイ・ブラウンをフィーチャーしたオスカー・ピーターソンの「ナイト・トレイン」を聴いたの。アップライト・ベースを弾きたいと思ったのはその頃ね。レイ・ブラウンのビートにはとても美しい隆起があり、とても美しい丸みを帯びていたわ。

♪ これまで来日されていますが、日本のイメージについて聞かせて下さい。また、日本での特別な思い出はありますか？

日本にはたくさんの特別な思い出があるわ。パット・メセニーと最初にツアーを行ったのが日本だった。その時はたくさんの素晴らしいギグをしたわ。初めて日本に来たのは、マーカス・ストリックランドとE.J. ストリックランドとのトリオで演奏しに来た時ね。それ以来、ヘンリー・コールとのファビアン・アルマザン・トリオとのギグや、ファビアンとのデュオ・コンサートも行ったわ。ファビアンと私が実際に恋に落ちたのは、日本を旅行した後で、その後直ぐに結婚したのよ（笑）。とても特別な瞬間がたくさんあったわ。いつも日本での時間を楽しんで来た。私は日本のオーディエンスが大好きで、彼らがどれほどの教育を受けて、どれほどの気遣いがあるか、リスナーがどれほど文化的であるかに感銘を受けているわ。

♪ これまでパット・メセニーについて聞かれることが多かったと思いますが、最初にパットと対面した時の第一印象、また、お気に入りのパットのアルバムについて聞かせて下さい。

初めてパット・メセニーに会った時は、私が大好きなデトロイト・ジャズ・フェスティヴァルのバックステージだった。私がジョー・ロバーノとデイヴ・ダグラスが率いるサウンド・プリンツ・カルテットで演奏していた時よ。パットのユニティ・グループの前後に同じステージで演奏していたの。バックステージで彼に会った時、最初に彼と話をしたのはケータリングエリアだったと思うわ。彼はとても親切だった。私たちは音楽について話したの。その後、次に彼に会ったのは数年後の同じフェスティヴァルだった。私はアナット・コーエンと演奏した後、バックステージで彼と出くわしたの。パットは私に彼のアパートで演奏するメールを受け取ったことがあるかと尋ねましたが、私はメールを受け取ったことはなかったの！だから、私は彼に正確なメール・アドレスを教えたのよ。そして、彼は私にアパートに来て一緒に音楽を演奏しようと誘ってくれて、それから彼は私とギレルモ・シムコックとアントニオ・サンチェスとバンドを結成したのよ。

彼はとても親切な人よ。音楽にとても熱心で。私が最初に彼のアパートに来た時、デュオで一緒にいくつかの曲を演奏したの。もちろん、私はジャズを始めた頃からずっと彼の曲を演奏していたからね。だから、私は彼の曲の多くを既に記憶として知っていたの。そして、次の機会に彼はアントニオに遊びに来るように誘ったから、私たちはトリオで演奏したのよ。本当に面白かったのは、パットが名付けた楽曲のひとつが「ソーラー」で、アントニオとパットが「ソーラー」を演奏するデュオ・トラックをフィーチャーしたアントニオのアルバム「マイグレーション」に合わせて練習していたこと。だから、パットとアントニオと実際に演奏した時はパットのアパートだったけど、レコーディングに合わせて演奏して、まるでその日の準備をしていたような気がするの（笑）。

私のお気に入りのパットのアルバムは、「ブライト・サイズ・ライフ」かな。私は彼の全てのトリオ・アルバムの大ファンなの。「クエスチョン・アンド・アンサー」、ラリー・グレナディアとビル・スチュワートとの「トリオ 99 → 00」。それと、「ミズーリの空高く」も好きだわ。だけど、お気に入りのアルバムと言うと、「ブライト・サイズ・ライフ」と言わざるを得ないわね。

♪ 強い影響を受けたベーシストを 3 人挙げて下さい。

直ぐにに頭に浮かんだのは、チャールス・ミンガス、レイ・ブラウン、ミシェル・ンデゲオチェロ。

♪ 本誌のタイトルはベーシストのリロイ・ヴィネガーのニックネームから付けているのですが、ベーシストとしてリロイさんをどう思いますか？

私は彼のウォーキングベースのラインの大ファンよ。あのウォーキングベースはとても素晴らしいわ。彼はとてもたくさんの素晴らしいミュージシャンたちと演奏して来たの。私はスタン・ゲッツやバリー・ハリス、ケニー・ドーハムの大ファンなの。彼はそのような素晴らしいミュージシャンたち全員と仕事をして来たわ。

♪ ベースを弾く上で最も大切なことは何ですか？

強さとチームワークね。強さとは、リズムを取る強さ、耳の強さ、自分のメロディーの強さ、つまりソロだけでなくウォーキングしているときの強さも意味するわ。

♪ 共演歴のある以下の 3 人のアーティストについてコメントを下さい。

【パット・メセニー】

私にとって非常に刺激的な人。私が知る最も勤勉なミュー

ジシャンのひとりね。とても多作なコンポーザーでもあるわ。だから、彼が行うすべてのプロジェクトに参加している。ミュージシャンとしてのスタミナも凄いしね。彼はとにかく演奏が大好きなの。私たちのショーは 3 時間近くあるのよ。彼はずっとステージに立ち続けて、ソロの楽曲を演奏したり、私たち全員やデュオで演奏しているの。ライヴギグの音楽に対する彼のエネルギーと興奮する姿を目の当たりにすることはとても刺激的だわ。また、彼のレコーディングにおけるアプローチの細やかさもね。各曲とアルバムについて非常に詳細に考えているのよ。

【テリ・リン・キャリントン】
私はこの女性に憧れているの。彼女は空想家・夢追い人。彼女は様々な世界をひとつにまとめた人よ。彼女は様々なバックグラウンドを持つミュージシャンをまとめて、実際にそれを実現して、本当に興味深い音楽とディスカッションを創造しているわ。彼女から多くのことを学んでいて、特にここ数年彼女のプロジェクトやサポートメンバーとして一緒に仕事をして来たわ。

つい最近、ジェン・シューとスミ・トノオカとサポートメンバーとして一緒に演奏したわ。彼女のバークリー音楽大学のジャズとジェンダー公正・正義の講義も見たわ。彼女はインスピレーションの源と言えるわ。彼女は他の人々のこと、メンターシップについて、新進気鋭の若いミュージシャンたちの成長を心から気に掛けている人のひとりよ。音楽ビジネスや芸術の分野では、非常に自己中心的な人もたくさんいるけどね。

彼女は質や能力において最高のレベルで演奏しているわ。彼女はみんなと演奏して来たしね。彼女がイベントを具体化したり、プログラムをまとめる際の全ての決定において、彼女がアーティスティック・ディレクターを務めている時はいつでも、一緒に仕事をしたい人々について、新進気鋭のミュージシャンの成功をどのように支援するのが最善かについて、本当に親身になって考えているわ。彼女はこれらのことについて本当によく考えているのよ。

【デイヴ・ダグラス】
非常にクリエイティブなミュージシャンだわ。彼と一緒に演奏したりツアーをして来た長い年月全てにとても感謝しているの。音楽、ツアー、アンサンブルでの演奏について多くのことを学んで来た。彼のクインテットで演奏したり、サウンド・プリンツ・バンドで演奏して来たの。彼の粘り強さにいつも驚かされているわ。

実際にこの 3 人のミュージシャンは、様々な意味で私が知っている最も勤勉なミュージシャンの 3 人だわ。

♪ 音楽以外の趣味はありますか？

私は泳ぐことがとても大好きなの。私にとって正に地球上で最高のこと。そして、2 歳の息子をスイミングに連れて行くことも大好きよ。それも地球上で最高のこと。泳ぐことに加えて、料理と読書も大好き。自転車に乗るのこともね。凄く熱狂的な自転車乗りではないけど、自転車に乗るのことは好きだわ（笑）。

♪ 2023 年に何か特別な計画はありますか？

クラシックのピアニスト、グロリア・チェンによるソロ・ピアノのための演奏をお披露目できることをとても楽しみにしているわ。それと、4 月 15 日にシカゴ大学でファビアン・アルマザンとのデュオ演奏も控えていて、そこでたくさんの新しい音楽が演奏されることにエキサイトしているの。あと、ちょうど短編ドキュメンタリーのスコアリングを終えたばかりで、別の短編映画スコアリングにも取り組んでいるところなの。

♪ 最後に The Walker's 読者と日本のファンにメッセージをお願いします。

読んでくれてありがとう。音楽、クリエイティヴな音楽をサポートしてくれていることに感謝しているわ。みんなが幸せに健康で居続けることができますように。

【リンダ・メイ・ハン・オー オフィシャルウェブサイト】
https://lindamayhanoh.com

【リンダ・メイ・ハン・オー Twitter】
https://twitter.com/lmoh000

リンダ・メイ・ハン・オーの直近の最新リーダー作

アヴェンチャリン
リンダ・メイ・ハン・オー

Biophilia Records
2019.5.17 リリース

【※ P11 で紹介！】